

竜雲舜虹苑は地域の皆様の心と心をつなぐ虹の懸け橋でありたいと願っています。

針供養に思う

今年還暦を迎える私がまだ小さかった頃、家の中には色々な「おもちゃ」が溢れていた。中でも鮮明に覚えているのは、長さ二〇センチ深さ七〜八センチ程の舟形の木製煙草盆と蓋に可愛い女の子の絵が描かれたブリキ製の裁縫箱である。煙草盆は祖父のお気に入り、灰皿・刻みタバコの桔梗・キセル・マツチなど入れていた。それらも興味津々であったが、私はこの舟形の盆を度々持ち出しては境内の水鉢やお風呂に浮かべて遊んでいた。当然その度祖父に見つかりこっぴどく叱られたものである。この祖父の五十回忌も昨年済んでしまった。裁縫箱の方は三〇センチ角ほどで元はクッキーが入っていた缶だったのだろう。

写実的な洋風人形の蓋の絵柄もだが中身がまた面白い。小さい空き缶に綿を詰めて作った手製の針山、マツチ針、和鋏、老眼鏡、指貫き、糸通し、色とりどりのボタンが大量に入った缶、何に使うか分からない物多数が一杯詰め込まれていた。私は母の裁縫している姿を見ているのが大好きだった。今では考えられないかも知れないが昔は破れた服も捨てずに継布を充てて直すのが一般的だった。靴下に穴が空いた、ズボンが破れた、ボタンが取れそうと言うと母は「あれ持ってきて」と。私はすぐに「お宝箱」持ってきて母に渡す。母は受け取ると針を頭で擦り、髪油を付けて見ている間に縫ってくれた。また小学生の時、手提げ鞆にアップリケを付ける宿題を忘れた朝、半ベソをかいている私を横目にあつという間に手の平大のそれを縫い付けてくれた事もある。子供心にその手際の良さに驚き目を見張ったものである。その母の裁縫箱のすみには古いフィルムケースがあり、中には折れたり曲がったりした針が入っていた。裁縫の途中で傷んだ針達である。昔は役目を終えた針もすぐには捨てず集めて供養してから土に埋めていたのだ。

毎年二月八日は「事始め」と言い、元は農作業の仕事の区切りの日であったが、いつしか婦人方の針仕事の区切りの日ともなった。一年間で役目を終えた針の供養を行い又新しい針に替えたのである。当寺の境内の端には針塚があり、毎年二月八日十一時から針供養を行っている。

毎回お針の供養と共に亡き母の裁縫姿を思い浮かべ母の回向も行っている。



「介護実技勉強会」



ポジショニング体験

ポジショニングとは、安全で快適な姿勢を実現するためクッション等を利用して筋肉の緊張を緩和します。



食事介助体験

福祉用具の体験コーナー



スライディングボードを使用して車椅子に移乗します。



スカイリフトを使用して椅子に座ります。

1月26日苑内研修で、全事業所の介護実技勉強会を実施しました。今回は初の試みで普段は利用者様の介護をする側の私達ですが、今回はグループに分かれ、交互に体験して日頃の利用者様と同じ目線に立って「介助を受ける側の気持ちとはどんな感じなんだろう」というテーマで体験型研修となりました。
声かけの仕方、身体の支え方、新しく導入した福祉用具、日頃使用しているリフト等は使用次第でお互いが安楽になる、不安が解消されると言った声があがり、職員一同正しい技術を身に具ける大切さを改めて感じました。



ケアワーカー

上原 一晃

配食サービス（食と施設の交流事業）は、現在仏生山・多肥地区の方を対象に週2回（月・木）に21食をご登録の方のご自宅に配達をしています。1食600円ですが、高松市からの補助があり実費負担は200円と安価なもの人気の秘密でしょうか。さてこの配食サービスのお弁当を平成13年から雨の日も雪の日も炎天下の暑い日も休まず配達を下さっているのが仏生山婦人会の皆様です。去る2月6日、いつもは配るだけのお弁当を実際に食べてみませんか？と持ちかけて試食会を行いました。「思ったより豪華。」
「結構、濃い味ね。」「お年寄り向けに柔らかい。」などのご意見をたくさん頂きました。私も16年という長い日々を有難く感謝しながら一緒に弁当をいただきました。これからも末永くよろしく願います。



配食サービスのあゆみ

～ おかげ様で16年 ～

主任生活相談員

大本徳子



社会福祉法人竜雲学園 竜雲舜虹苑

特別養護老人ホーム
短期入所サービス
通所介護サービス
認知症型通所サービス
訪問介護サービス
老人介護支援センター
ケアハウス



〒761-8078
高松市仏生山町甲3100番地2
TEL: 087-888-5800
FAX: 087-889-1004